



「温泉・銭湯入浴料」の支出

— 家計調査（二人以上の世帯）結果より —

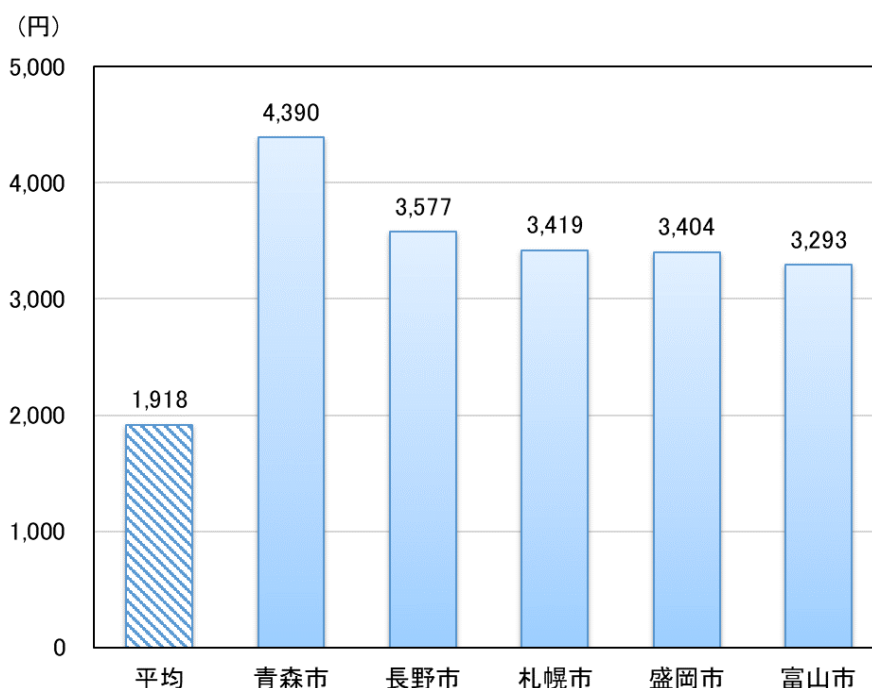


夏の暑さも徐々に和らぎ、過ごしやすい季節になりました。10月10日は「銭湯の日」です。10月10日の「1010=セントウ」という語呂合わせが由来となっています。また、1964年10月10日に東京オリンピックが開催されたことにもちなんでいます。スポーツで汗をかいた後に入浴をすると健康増進につながることから東京都公衆浴場業生活衛生同業組合が1996年に制定しました。そこで今回は、「温泉・銭湯入浴料」の支出について二人以上の世帯の結果から見てみましょう。

年間支出金額は青森市が1位

2016年～2018年平均における「温泉・銭湯入浴料」の1世帯当たり年間支出金額を都道府県庁所在市及び政令指定都市別にみると、青森市が4,390円と最も多くなっています。次いで、長野市（3,577円）、札幌市（3,419円）などとなっています。（図1）

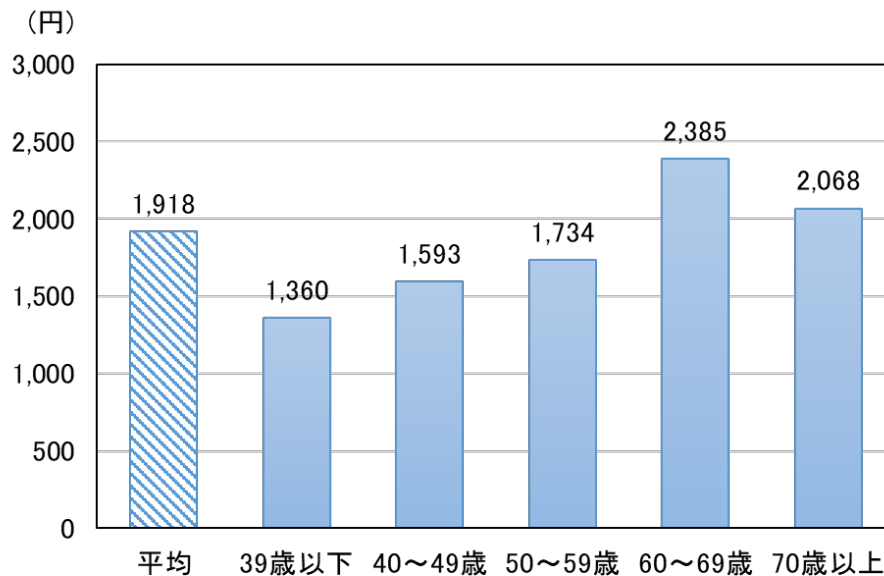
図1 「温泉・銭湯入浴料」の1世帯当たり年間支出金額の都道府県庁所在市及び政令指定都市別ランキング（2016年～2018年平均）



60～69歳の支出金額は39歳以下の1.8倍

次に、世帯主の年齢階級別にみると、60～69歳と70歳以上で平均を上回っており、支出が多くなっています。また、支出が最も多いのは60～69歳の2,385円で、最も少ない39歳以下（1,360円）の1.8倍となり、およそ1,000円の差がある結果となっています。（図2）

図2 世帯主の年齢階級別「温泉・銭湯入浴料」の年間支出金額（2016年～2018年平均）



1月に支出が多い

最後に、月別にみると、お正月などがある1月が199円と最も多くなっています。次いで、夏休みがある8月（193円）が続いています。2016年～2018年の平均値（160円）を上回っているのは1月、3月、5月、8月、12月と、冬休み、春休み、ゴールデンウィーク、夏休みなど、休みの多い月で支出金額が多くなっています。（図3）

図3 「温泉・銭湯入浴料」の1世帯当たりの月別支出金額（2016年～2018年平均）

